

みかん

後期摘果で 品質向上を



果樹林産センター
小杉 真啓

今月は、後期摘果が主な作業です。収穫までの時間を有効活用し、高品質果実の生産に努めましょう。

《着果管理》

養分の使われ方が、果実の肥大成長から果汁蓄積に移り始める時期です。高い品質向上効果が期待できるので、内成り果や裾成り果、外観不良果を中心に摘果しましょう。また、果梗が太く上を向いている天成り果は、9月に摘果すると秋芽が発生し、周囲の果実の品質に影響するので、10月中旬以降に果梗枝ごと剪除してください。

《浮皮軽減対策》

近年、秋季の高温多雨により浮皮が多発しています。浮皮軽減対策を行いましょう。

①着果管理

収穫までに適正葉果比30〜35枚/果に仕上げ、貯蔵用果実であれば7〜8分着色での収

穫を徹底してください。

②GP剤

満開130日頃にジベレリン液剤1〜3 ppm (5000〜1667倍) + ジヤスモメート液剤2000倍を混用散布します。浮皮軽減効果は高いですが、着色が遅れます。初めて使う場合は、當農指導員へ相談してください。

《台風対策》

①事前対策

- ・防風垣、防風ネット、排水路の点検・整備
- ・マルチの補強、倒伏や枝折れ防止のため支柱でしっかり固定
- ・かいよう病の発生が心配される品種や園地では、コサイド3000を2000倍または、Zボルドー8000倍+クレフノン200倍を散布

②事後対策

潮風害を受けた場合は、6時間以内に樹体へ2〜3t/10aのかん水を行い、塩分を洗

い流しましょう。

《病害虫防除》

病害虫が遅くまで発生する傾向です。園地を良く観察し適期防除に努めてください。

- ・黒点病 ペンコゼブ水和剤 500倍 (30日〜4回) 防除後、30日経過するか累積降雨量が250mmになったら、再防除を行います。
- ・チャノキイロアザミウマ スタークル顆粒水溶剤2000倍 (前日〜3回)
- ・ミカンハダニ ダニコングフロアブル 4000倍 (前日〜1回) または、ダニエモンフロアブル 5000倍 (7日〜1回)
- ・ミカンサビダニが発生が予想される場合は、ダニ剤をダブルフェースフロアブルに変更しましょう。

※7・8月に引き続き、果皮障害軽減を目的にバイカルティ1000倍を混用散布します。